

入賞

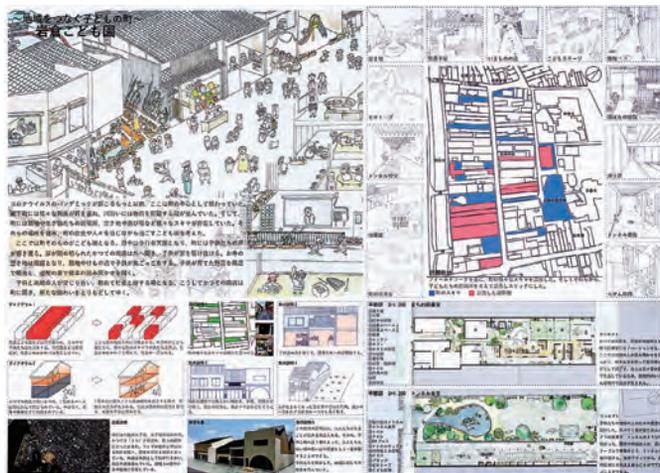
～地域をつなぐ子どもの町～ 岩倉こども園

鳥取県 | 鳥取県立米子工業高等学校 選手…2年生4名



米子市の米子城外堀の外側には、ウナギの寝床と呼ばれる細長い敷地の町屋が残っている。そんな中に子どもたちの駆け回る声が響いているのを想像すると楽しい気持ちになる。多くの商店が商いをやめ、暗かった商店街に明るさが戻ってくる。路地やピオトープや生き物の道などさまざまな提案が良いと思う。しかしながら、この子どもたちの居場所のスケッチが、計画敷地のどこに位置しているのかわからなかった。図面中に名称を記載するなり、引出線で示すなりする必要がある。折角の良い提案もきちんと伝わらないのはもったいない。

子どもたちが地域をつなぎ、地域で子どもを見守り育てる提案はとても良かった。しかしながら、今回のテーマは、働きながら暮らすことができる職住一体の家「まちに住む・地域に開く住まい」である。住居として住んでいる人々が、まちの図書館やトンネル食堂を、具体的な仕事としてどのようにこども園とかかわっているのかを提案できていたらもっと良かった。そこのところが足りずに残念であった。(本間)



入賞

風が流れる庵治石ロード

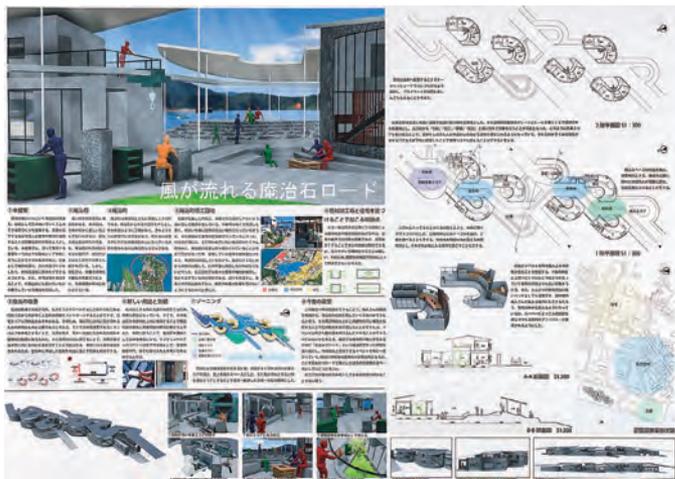
香川県 | 香川県立高松工芸高等学校 選手…3年生5名



伝統文化として残る地元産業の庵治石の継承や発信、また衰退事業に対して発展につなげるべく考えられた提案です。産業に対するサーチを行い、作業工程に係る問題回避としてのコンセプトワークがしっかりと考えられています。またプロセスの組み立てが読み取りやすく整理されており、関心あるプレゼンテーションでした。

これまでの産業の発展型として、外壁に庵治石を使用することは、建材としての可能性以上の効果をもたらすものと考えます。広場やダウンフロアの設えとしても庵治石を使用していますが、綺麗に整備するのではなく、これから加工される石やストックされる石を一見無造作に置きつつも、腰掛や空間構成などに利用され、その時々で表情が変わるインスタレーションのような仕掛けがあると、より芸術文化としての発信力が高められ面白いものになったのではと思いました。

気になったのは、テスラバルブの効果は、バルブとして密閉された筒状で効果を発揮するものと思われ、本案で効率よく送風装置としてなりえるのか——。結果として平面的モチーフとしての「形追い」になってしまっているのではないかと思います。(山本)



入賞

美住館

宮崎県 | 都城工業高等専門学校 選手…3年生7名



アートのある空間に居室を設ける、そこにアーティストが住む、そのことで来館者は制作過程を含めてアートを見ることができ、創作交流空間でアーティストとともにアートをつくり直接交流することができる。また、カフェ、レストラン、屋上庭園などの、人々がアート以外の用途でも施設に参与する空間を提供しつつ、オンラインで提供されるアートではない、人々が間近に直接アートを感じられる空間を提供する計画である。

上記の計画はよく建築化できていると思うし、プレゼンテーション、CGによるパースも優れている。全体にバランスが良い作品である。些細なことではあるが、「個展空間」、「創作交流空間」がどの部分なのか、文字の説明はあるが平面図中に記載がないため、不明瞭であった。

気になるのは、今ある都城の美術館、図書館を取り壊した敷地に建てる点である。既存の建物の価値を踏まえた上での決断だとは思いますが、若い諸君に逡巡はなかったのでしょうか、気になっていて欲しい、と思った。また、近年のアートは、箱の中に納まる絵画・彫刻・工芸のようなアートばかりではない。新しい種類のアートにどう対応するのか、をみてみたかった気もする。

(伊東)



